

「友達からはじめよう」

嬉しい出会いとすっきりしない出来事があった。まず、すっきりしない出来事から。

あるワークショップで、多様性を知ろうと「聴覚障害者」「視覚障害者」「肢体障害者」「高齢者」「妊婦」「外国人」「子ども」の疑似体験が行われた。私は聴覚障害者の当事者として、疑似体験が終わった後、参加者にアドバイスしてほしいと言われていた。正直に言うところからあまり乗り気ではなかったが、やはり参加しない方がよかつたなあと考えた。想像通り、聞こえない人の状況を体験した人からは「聞こえない人の大変さが分かった」「みんなが何を言っているのか分からず、疎外感を感じた」「話を読み取るのが大変で目が疲れた」など、感想はまちまちだったが、口を揃えて言った言葉がある。

「いい経験になった」これからは周りに聞こえない人がいたら、助けたい」

そう言いながら「聞こえないって大変だなあ」と私を見る。その目が嫌だった。その表情を見るのが辛かった。みんなの頭の中には「聞こえない」大変・かわいそう」というイメージができてしまっている。「聞こえない人」助ける対象」という公式ができてしまったようだ。

AYAKO IMAMURA ESSEY

世界は優しくささやく - sounds so beautiful everyday -



photograph by Koji Matsumoto

vol.01 友達からはじめよう

「大変なこともあるけれど、楽しいこともあるんだよ。豊かな世界だよ」

私はそう言いたかった。しかし、疑似体験をしたばかりの人たちには、言葉で訴えても伝わらないだろうと思った。それは実際に楽しい体験をしないと分からないことだから。

嬉しい出会いとは、私が制作した映画「珈琲とエンピツ」の上映に来てくれた20代の青年である。彼は手話はできない。上映後の交流会にも参加してくれた。交流会はろう者がほとんどで、手話を知らない聴者は彼ひとりだった。新しい世界に飛び込んだ好奇心と緊張感が混じった表情で、ビールや、馳走が乗っているお皿が並んだ机の上を舞う手話の花に目を輝かせていた。プロデューサーが時々通訳をしたけれど、楽しめたかなあとちょっと心配だった。でも、それは杞憂だった。私が思っていた以上に彼は楽しんでいて。

彼のブログの一部を紹介したい。

たぶん、阿久津さん(※注:「珈琲とエンピツ」プロデューサー)が通訳してくれたところ以外は、半分ぐらいしか話がわからなかつたと思う。でも、それでも、「伝えたいって気持ち」があつたから、ノート持って行って筆談したりとか、わ

からないところは「もう一回言ってください」とか「わからない」とか言って言った。もっと聞きたいっていうか、みんなの手話(言葉)をわかりたいって思った。もっともっとみんなの話が聞けたらな〜って。だって、そっちの方がもっともっとも〜ってとおもしろいもん! だって。だから、映画館の帰りに地元図書館によって手話の本を一冊借りた。

みんなと話してみたい! という純粋な気持ち。みんなの言葉(手話)が分かつたらもっと楽しいだろうな、と手話の本を借りるといふ行動。とても嬉しかった。このことなんだよってワークショップに参加した人たちに言いたかった。彼のブログの最後には「出会い」について書かれていた。

「出て」会う。それが「出会う」ということ。それは、自分で構築した心の壁を取り払って、その向こう側に「出る」ということ。だから「出ない」と「会えない」。「出る」ことが「会う」とも言える。

「自分で構築した心の壁を取り払って、その向こう側に「出る」ということ」を読んだとき、「珈琲とエンピツ」の主人公はサーフィショップの店長だけれど、まさに店長と出会った私の物語でもあると思つた。壁を作っていたのは「自分」と

いうことに気づき、勇気を出してその壁を取り払って新しい世界に飛び込む。すると、世界はやさしいんだと知る。世界をもっと信頼していいんだと感じる。

そうして、またまよここと成長した現在の私がある。いま、私はある女性に出会い、取材している。彼女は7つの障害を持っていて毎日が末期の生活を過ごしている。彼女を見た時、好きだ! という強い感情が体中を走つた。彼女との付き合いを通して、私の知らなかつた新たな心の壁に気づく。それもまた自分が作り上げたものだ。このままではいけない。その壁を取り払おうともがいた。苦しんだ。そして、見つけた答えは、まずは自分に壁があることをまず受け入れよう。ということ。

出ないと自分の心が分らない。分かつているようで分かつていない自分。でも、出たから自分にこんな壁があるということが分かつた。人に「出会う」ということは、新しい自分、自分も知らなかつた自分に出会うことでもある。

ドキュメンタリーは作り手の成長の軌跡そのものだと思う。そういうドキュメンタリーを制作できる環境にいる私はとても幸せ者だと思つた。私が気づいたこと、感じたことを映画にして皆に伝えていきたい。

友達からはじめようって。

音のない3.11
~被災地にろう者もいた~



DVD 3,000円(税・送料込)

珈琲とエンピツ



http://coffee-to-empitsu.com

今村彩子 いまむらあやこ

名古屋出身 / Studio AYA代表
愛知教育大学卒業 / 大学在籍中にカリフォルニア州立大学ノースリッジ校に留学し、映画制作・アメリカ手話を学ぶ。東日本大震災直後、宮城に向かい、被災ろう者取材する。全国各地で講演・上映活動もこなしている。主な映画「音のない3.11」「珈琲とエンピツ」
http://www.studioaya.com